

県政レポート

神奈川県議会議員

せいたろう

ます晴太郎

神奈川県議会

発行元 **ます晴太郎事務所**

〒253-0041 茅ヶ崎市茅ヶ崎230
TEL/0467-52-7599 FAX/0467-52-7660

令和4年 第2回定例会 一般質問

令和4年度第2回定例会において一般質問を6月24日に行いました。内容の一部を報告させていただきます。

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 1 県職員の意識改革について【知事】 2 自殺対策について【知事】 3 県内酪農業の支援について【知事】 4 気候変動に伴う海洋環境の変化の影響を受けている本県漁業への取組について【知事】 | <ul style="list-style-type: none"> 5 オーラルフレイル対策について【知事】 6 茅ヶ崎海岸における侵食対策の推進について【県土整備局長】 7 県営水道における地震災害対策の取組について【企業庁長】 8 かながわペットのいのち基金の活用について【健康医療局長】 |
|---|---|

県内酪農業の支援について

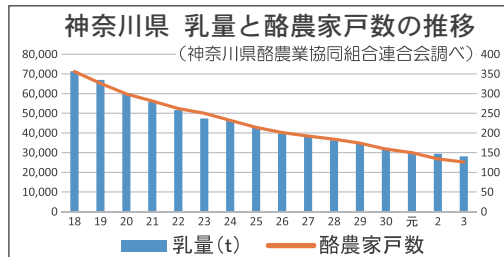


Question 質問

酪農業配合飼料価格や輸入乾牧草の価格上昇が続き、経営の継続が困難なレベルにきています。生乳の販売価格の急激な値上げは、牛乳消費をさらに落ち込ませる原因にもなり、飼料価格の高騰分を生乳の販売価格に転嫁することは困難な状況にあります。飼料価格の高騰に対応するため、酪農家が飼料を自ら生産する、いわゆる自給飼料についても、本県の酪農は都市部に立地し、飼料を作付けする畑の集約が難しいことなどから、直ちにその生産を拡大することには適していません。飼料等の高騰が続き、本県の酪農業が衰退するような事態となれば、現在行われている学校給食への県産牛乳の供給が困難になるほか、農業における土づくりに欠かせない「たい肥」が確保できなくなるなど、本県農業の振興に重大な影響を及ぼしかねません。飼料価格の高騰により、酪農経営が厳しい中、どのように本県酪農を支援していくのか、見解を伺います。

Answer 答弁(黒岩知事)

本県の酪農は、県民80万人分に相当する新鮮でおいしい牛乳を生産し、一部の生産者はアイスクリームなどの乳製品の加工販売にも取り組んでいます。酪農経営で最も費用がかかるとされる家畜の餌である飼料代について、海外から輸入されるトウモロコシなどの穀物や乾牧草の価格が、過去最高の水準まで高騰しています。本県のような都市部の酪農の場合、牧草などを生産する畑の確保が難しく、輸入飼料に依存しており、大変厳しい状況に置かれています。



本県酪農がこの危機を乗り越えるためには、飼料価格高騰への緊急的な対策と輸入飼料への依存から脱却し体質強化を図っていく中長期的な視点での対策の両面から取り組む必要があります。

そこで輸入穀物や乾牧草の価格高騰に対し、国の支援制度ではカバーできない生産者負担の増加に対して補助し、当面の経営を安定化させたいと考えています。また、輸入飼料への依存から脱却するため、食品残渣を飼料原料とするエコフィードの活用を促進するとともに、酪農家や関係団体、飼料製造販売会社と、国産の牧草などの活用を促進するネットワークを強化します。具体的には、酪農家が国産飼料の利用を拡大できるよう、県は、県外で生産された牧草などの調達の仕組みづくりや、県内の水田などでの飼料生産に向けた農家との連携を支援し、国の事業や他県の先進事例に関する情報の提供も行っていきます。

飼料価格高騰による負担増への緊急的な対策と、輸入飼料への依存から脱却するための中長期的な視点からの対策の両面に取組むことで、本県酪農業を支援してまいります。



6月補正予算において「畜産業物価高騰対応費補助事業」の支援策が決定しました!



ます晴太郎 公式LINEを開設しました!

日々の活動報告や議会での様子を配信しています!
メッセージも送ることができますので登録をよろしくお願いいたします。



このQRコードから
LINEの友達登録ができます。

佐藤光 茅ヶ崎市長にインタビュー

Interview

ます晴太郎事務所では毎年、春と夏に大学生のインターンを受け入れています。インターンは政治家の仕事や地域との関わりを学びます。今夏は大学生2名が来てくれました。大学生が直接、佐藤光茅ヶ崎市長にインタビューをし、これからの茅ヶ崎の未来について意見交換を行いました。その一部をご紹介します。



左から佐藤市長、大学生インターンの家中さんと木村さん。

茅ヶ崎市をどのような街にしていきたいですか…

コロナ禍によりテレワークが定着した事がきっかけで、東京から多くの人たちが茅ヶ崎の街を選んで移住をしてきています。東京23区からの増加率は全国トップです。その移住をしてきた人たちは30~40代という「働き盛り」で「子育て」世代です。その働き盛りで子育て世代を応援していきたいと考えています。

子育て支援をして、その子どもたちが就職する20年後も茅ヶ崎に残ってくれるようにするにはいけません。そのためには、住みやすく、働き口が多いにぎわいのある街を残していきたいと思えます。活気のある街になれば高齢者にも住みやすい街になります。先を見ながら好循環を作りだせればいいですね。



国・県・市の連携の重要性は…

直接相談をできる人がどれだけいるかが重要ですね。神奈川県議会議員を5期務めたことで、直接、相談をできる人が多くいます。ワクチン接種の際には、当時の河野太郎ワクチン接種担当大臣に力を貸してもらいました。また、茅ヶ崎だけが良くなればいいのではなく、隣の藤沢市や平塚市、寒川町と広域的に良くならなければいけません。コロナ禍で力を入れてきた、キッチンカー事業者支援として、市役所前や茅ヶ崎市の施設で販売を行いました。このキッチンカーについても、茅ヶ崎のキッチンカーが藤沢で販売することができたり、逆に、藤沢のキッチンカーが茅ヶ崎で販売できたりと、これも直接相談をして進めることができました。



若い世代に期待する事はありますか…

松林地区コミュニティセンター建設に向け、若い世代の声を聞くためにユースクラブを立ち上げました。高校生や大学生の若い世代の人たちが入ってくれました。若い世代ばかりで集まらず、お年寄りの方と一緒に何かをしていきたい。若い人たちがお年寄りを求めているなど、面白い意見がいっぱいありました。きっかけを自分たちで作ることも大切ですが、行政がそのきっかけを作ることも重要だと感じました。



せいたろう
ます 晴太郎
茅ヶ崎市十間坂生まれ・在住

〈略歴〉
茅ヶ崎市立梅田小学校 卒業
茅ヶ崎市立梅田中学校 卒業
神奈川県立神奈川工業高等学校 卒業
関東学院大学経済学部経営学科 卒業
自民党茅ヶ崎市連合支部 副支部長

〈県議会〉
文教常任委員会 委員
安全安心対策特別委員会 委員

ご意見ご要望をお待ちしております

✉ seitaromasu@gmail.com
www.seitaro-masu.com

